

国立民族学博物館研究報告 vol.1-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	1
号	1
発行年	1976-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009274

1976・3

11
卷号

国立民族学博物館 研究報告



論文

ミへの儀礼——メキシコの土着宗教とカトリック—— 黒田悦子

ルカイ族の焼畑農業——その技術と儀礼についての調査報告—— 佐々木高明・深野康久

シロフミ田下駄の諸系列——用具論的に—— 中村俊竜智



資料・研究ノート

中川五郎治の見たシベリア諸民族—— 加藤九祚

Performers of Fulbe Oral Arts in Diamaré Prefecture—— EGUCHI, Paul Kazuhisa



『国立民族学博物館研究報告』のあり方について—— 梅棹忠夫



国立民族学博物館

大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 〒565 TEL 06-877-5341

国立民族学博物館研究報告

1 卷 1 号

1976年 3 月

目 次

創刊のことば	梅 棹 忠 夫	
論 文		
ミへの儀礼 —メキシコの土着宗教とカトリック	黒 田 悦 子	1
ルカイ族の焼畑農業 —その技術と儀礼についての調査報告	佐々木 高明 深 野 康 久	33
シロフミ田下駄の諸系列 —用具論的に	中 村 俊 亀 智	126
資料・研究ノート		
中川五郎治の見たシベリア諸民族	加 藤 九 祚	152
Performers of Fulbe Oral Arts in Diamaré Prefecture	EGUCHI, Paul Kazuhisa	159
調査研究活動報告		
ニューギニアの収集品から	中 山 和 芳	169
ヨーロッパ諸国の博物館視察 (1)	大 給 近 達	177
ヨーロッパの調査収集 (1) フィンランド	和 田 祐 一	181
西アフリカ収集調査雑記	端 信 行	187
HRAFとの協力体制はじまる	祖 父 江 孝 男	194
彙 報		
『国立民族学博物館研究報告』のあり方について	梅 棹 忠 夫	204
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		216
国立民族学博物館研究報告執筆要領		217

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 1 No. 1

March 1976

UMESAO, Tadao	Foreword	
KURODA, Etsuko	The Rituals of the Mixe Indians in Oaxaca (Mexico)—sacrifice and catholicism.....	1
SASAKI, Komei and Yasuhisa FUKANO	Swidden Cultivation and Agricultural Rituals in a Rukai Village (Formosa).....	33
NAKAMURA, Takao	Systematic Study of the <i>Shirofumitageta</i> Wooden Clog used in Rice Paddies (Japan).....	126
KATO, Kyuzo	Siberian Peoples Observed by Goroji Nakagawa.....	152
EGUCHI, Paul Kazuhisa	Performers of Fulbe Oral Arts in Diamaré Prefecture (Cameroun).....	159
NAKAYAMA, Kazuyoshi	Collecting of Ethnological Artifacts from Papua New Guinea	169
OGYU, Chikasato	Visiting European Museums 1.....	177
WADA, Yuiti	Collecting of European Ethnological Objects 1 (Finland).....	181
HATA, Nobuyuki	Miscellaneous Notes on Collecting of Ethnological Objects in West Africa.....	187
SOFUE, Takao	A Japanese Cultural Information System: Joint Project of the Human Relations Area Files and the National Museum of Ethnology.....	194
UMESAO, Tadao	About This Bulletin.....	204

彙報

(昭和49年6月～昭和50年12月)

国立民族学博物館組織・運営機構

組織
館長 梅棹忠夫
。管理部
部長 宮本繁雄
(庶務課)
課長 松嶋義文
庶務係長 上田進彦
人事係長 植田守彦
共同利用係長 篠田隆夫
事務官 谷口康昭
技官 藤本邦治
(会計課)
課長 加藤義行
主計係長 本田信一
経理係長 鹿喰康浩
用度係長 本庄清雄
主任 松浦光雄
主任 山室邦夫
事務官 河野正俊
事務官 松本敬一
(施設課)
課長 和田昭三
建築係長 鑄物良雄
設備係長 三宅新一
主任 守田成男
主任 林宜男
(企画課)
課長 宮内盈義
普及係長 石元宏勉
事業係長 百々忠夫
。情報管理施設
施設長(併) 佐々木高明
(資料室)
室長 内田正英

文献図書係長 今井義雄
主任 戸塚明
主任 宇野文男
技官 植田啓二
技官 宇治谷恵

。研究部

第1研究部
部長(併) 祖父江孝男
教授 君島久子
教授 加藤九祚夫
教授(併) 山田信夫
助教 竹村卓二
助教 松澤員子
助教(併) 谷泰芳
助手 中山和修
大胡修
第2研究部
部長(併) 佐々木高明
教授 石井米雄
教授(併) 松原正毅
助教 藤井知昭
助教(併) 青木保治
助手 田邊繁治
助手 吉田集而
第3研究部
部長(併) 祖父江孝男
教授 和田祐一
教授(併) 中根千枝
助教 端信行
助教 和田正平
助教(併) 長島信弘
助手 江口一久
助手 須藤健一

第4研究部

部長(併) 祖父江 孝 男
 教授 大 給 近 達
 教授 杉 本 尚 次
 助 教授 黒 田 悦 子
 助 教授 中 村 俊 亀 智
 助 手 藤 井 龍 彦
 助 手 石 森 秀 三

第5研究部

部長(併) 佐々木 高 明
 教授 伊 藤 幹 治
 助 教授 石 毛 直 道
 助 手 櫻 井 哲 男
 助 手 泉 幽 香

甲田 和衛 大阪大学教授(人間科学部)
 白鳥 芳郎 上智大学教授(文学部)
 富川 盛道 東京外国語大学教授(アジア・アフリカ言語文化研究所)
 中根 千枝 東京大学教授
 (東洋文化研究所)
 藤岡 喜愛 愛媛大学教授(教養部)
 吉田 禎吾 東京大学教授(教養学部)
 伊藤 幹治 国立民族学博物館教授
 大給 近達 国立民族学博物館教授
 佐々木高明 国立民族学博物館教授
 祖父江孝男 国立民族学博物館教授
 和田 祐一 国立民族学博物館教授

2. 評議員および運営協議員

(評議員)

石井 良助 専修大学教授(法学部)
 市古 貞次 国文学研究資料館長
 今西 錦司 京都大学名誉教授
 江上 波夫 上智大学教授(文学部)
 大藤 時彦 成城大学名誉教授
 岡 正雄 和洋女子大学教授
 (文家政学部)
 釜洞醇太郎 大阪大学名誉教授
 茅 誠司 日本学術振興会会長
 窪 徳忠 立教大学教授(文学部)
 桑原 武夫 京都大学名誉教授
 齋藤 正 国立劇場理事長
 鈴木 尚 国立科学博物館人類研究部長
 古野 清人 駒沢大学教授(文学部)
 松本 信廣 慶応義塾大学名誉教授
 山本 達郎 国際基督教大学教授
 (教養学部)

(運営協議員)

石川 榮吉 東京都立大学教授
 (人文学部)
 伊藤 清司 慶応義塾大学教授(文学部)
 岩田 慶治 東京工業大学教授(工学部)
 大島 襄二 関西学院大学教授(文学部)

3. 展示企画委員会委員および同専門委員

(展示企画委員会委員)

五十嵐道子 朝日放送株式会社
 総務局出版部
 大貫 良夫 (財)人間博物館リトル
 ワールド主任研究員
 大林 太良 東京大学教授(教養学部)
 川添 登 建築評論家
 黒川 紀章 黒川紀章建築・
 都市設計事務所社長
 小松 左京 作家
 高田 宏 エッソスタンダード石油
 株式会社広報部
 田邊 員人 九州芸術工科大学教授
 (芸術工学部)
 谷 泰 京大助教授
 (人文科学研究所)
 多比良 稔 九州芸術工科大学教授
 (芸術工学部)
 中尾 佐助 大阪府立大学教授(農学部)
 中山 和彦 筑波大学教授
 (電子・情報工学系)
 前田 孝一 大阪府企画部文化振興室長
 米山 俊道 京都大学助教授(教養部)
 大給 近達 国立民族学博物館教授
 佐々木高明 国立民族学博物館教授
 祖父江孝男 国立民族学博物館教授

(展示企画委員会専門委員)

栗津 潔 グラフィックデザイナー
及川 昭文 筑波大学講師

(電子・情報工学系)

辻 三郎 大阪大学教授 (基礎工学部)

長尾 真 京都大学教授 (工学部)

山本 毅雄 東京大学助教授

(大型計算機センター)

館内各種委員会の構成

(○印は委員長を示す)

研究連絡委員会

○杉本尚次, 竹村卓二, 松原正毅, 和田正平, 石毛直道, 中山和芳, 須藤健一, 江口一久, 石森秀三

建築委員会

○佐々木高明, 大給近達, 杉本尚次, 松澤員子, 藤井知昭, 吉田集而

国際化委員会

○伊藤幹治, 祖父江孝男, 和田祐一, 松澤員子, 藤井知昭, 江口一久

広報委員会

○祖父江孝男, 加藤九祚, 端 信行, 黒田悦子, 大胡 修, 田邊繁治, 須藤健一, 藤井龍彦, 石森秀三, 泉 幽香

収集委員会

○佐々木高明, 加藤九祚, 伊藤幹治, 端 信行, 石毛直道, 江口一久, 藤井龍彦

出版委員会

○加藤九祚, 君島久子, 伊藤幹治, 竹村卓二, 松原正毅, 和田正平, 黒田悦子, 中山和芳, 田邊繁治, 江口一久, 石森秀三, 櫻井哲男, 泉 幽香

情報システム委員会

○大給近達, 和田祐一, 松澤員子, 中村俊亀智, 大胡 修, 吉田集而, 櫻井哲男

情報プース委員会

○祖父江孝男, 大給近達, 竹村卓二, 黒田悦子, 中村俊亀智, 大胡 修, 須藤健一, 石森秀三

制度委員会

○梅棹忠夫, 祖父江孝男, 佐々木高明, 伊藤幹治, 端 信行, 藤井龍彦

展示委員会

○大給近達, 佐々木高明, 杉本尚次, 松原正毅, 藤井知昭, 端 信行, 和田正平, 中村俊亀智, 石毛直道, 吉田集而, 藤井龍彦, 泉 幽香

図書委員会

○和田祐一, 君島久子, 加藤九祚, 竹村卓二, 和田正平, 黒田悦子, 中山和芳, 須藤健一

標本整理委員会

○佐々木高明, 杉本尚次, 松原正毅, 藤井知昭, 中村俊亀智, 石毛直道, 中山和芳, 吉田集而, 櫻井哲男

HRAF委員会

○祖父江孝男, 和田祐一, 松澤員子, 大胡修

展示のためのプロジェクト・チーム

(○印はチーム・リーダーを示す)

オセアニア展示

○石毛直道, 杉本尚次, 松原正毅, 中山和芳, 須藤健一, 石森秀三

アメリカ展示

○大給近達, 祖父江孝男, 黒田悦子, 吉田集而, 藤井龍彦

ヨーロッパ展示

○和田祐一, 加藤九祚, 大給近達, 杉本尚次, 藤井知昭

アフリカ(ブラック・アフリカ)展示

○端 信行, 和田正平, 石毛直道, 江口一久

西アジア(北アフリカを含む)展示

○松原正毅, 加藤九祚, 藤井知昭

東南アジア展示

○佐々木高明, 君島久子, 竹村卓二, 松澤員子, 松原正毅, 石毛直道, 田邊繁治, 吉田集而, 江口一久

日本展示

○祖父江孝男, 佐々木高明, 大給近達, 杉本尚次, 伊藤幹治, 中村俊亀智, 大胡修, 須藤健一, 泉幽香

言語展示

○和田祐一, 松原正毅, 江口一久

民族音楽展示

○藤井知昭, 櫻井哲男

技術展示

佐々木高明, 大給近達, 杉本尚次, 中村俊亀智, 石毛直道

共同研究会

昭和49年

- 6月18日 「タイにおける伝統的国家的構造」 田邊 繁治
- 6月25日 「文化人類学の性格と方法論的問題」 大給 近達
- 7月8日 「フルベ族の言語人類学的調査」 江口 一久
- 9月24日 「民族音楽の理論」 藤井 知昭
- 12月3日 「共同討議—共同研究のあり方—」
- 12月17日 「ローマ字化について」 和田 祐一

昭和50年

- 1月21日 「言語と文化」 和田 祐一
- 3月11日 「インドネシアの博物館を中心として」
KOENTJARANINGRAT
(インドネシア学術会議)
- 4月8日 「人類学・心理学・精神医学—境界領域で考えたこと—」 祖父江孝男
- 4月15日 「南島農耕文化と照葉樹林文化」 佐々木高明
- 4月22日 「トバ・バタック族の病気について」 吉田 集而
- 5月6日 「チャビン文化をめぐって」 藤井 龍彦
- 5月20日 「ソ連の民族学的研究の現状と特徴」 加藤 九祚

- 5月27日 「物質文化と生活様式」 石毛 直道
- 6月3日 「事実・方法・視点」 伊藤 幹治
- 6月10日 「擬制的親族研究をめぐる諸問題—わが国の研究状況と今後への展望—」 大胡 修
- 6月17日 「アフガニスタンの美術」
モタメディ・ハルコ
(アフガニスタン カー
ブル博物館長夫人)
- 6月24日 「最近の民家研究」 杉本 尚次
- 7月1日 「ニューギニア高地の男女関係」 中山 和芳
- 7月8日 「部族社会・経済人類学・婚資論」 端 信行
- 9月16日 「HRAFの活動—その現況と将来—」 松澤 員子
- 9月23日 「北タイで調査したことおよびこれから調査すること」 竹村 卓二
- 9月30日 「キリスト教の土着化と千年王国運動—南太平洋史研究への一視点—」 石森 秀三
- 10月7日 「オーストリアにおける日本学」 J. KRINER
(ウィーン大学日本文化研究所)
- 10月14日 「今後の研究会運営について」
- 10月21日 「用具論の立場」 中村俊亀智
- 11月4日 「映画試写会」
- 11月11日 「ミヘ族のエスノヒストリー」 黒田 悦子
- 11月17日 「南西諸島の社会人類学的研究の諸問題」 須藤 健一
- 12月2日 「トルコの村の食事体系」 松原 正毅
- 12月9日 「農牧民イラクとバニャルアンダの比較考察」 和田 正平
- 12月16日 「民族音楽の現状と課題」 櫻井 哲男
- 12月23日 「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ試写会」

海外における研究・調査・収集活動

氏名	所属・官職	出発	帰国	行先
田邊 繁治	(第2研究部助手)	49. 7. 15	50. 12. 31	タイ
江口 一久	(第3研究部助手)	49. 8. 1	50. 2. 9	エチオピア, ナイジェリア, カメルーン
中山 和芳	(第1研究部助手)	49. 8. 27	49. 10. 28	パプア・ニューギニア, オーストラリア
祖父江孝男	(第1研究部教授)	49. 9. 8	49. 12. 7	アメリカ合衆国
石毛 直道	(第5研究部助教授)	49. 9. 13	49. 11. 2	パプア・ニューギニア, シンガポール, マレーシア, タイ, 香港
梅棹 忠夫	(館長)	49. 9. 20	49. 10. 26	アメリカ合衆国
佐々木高明	(第2研究部教授)	49. 11. 17	50. 1. 16	タイ, ビルマ, ネパール, インド
藤井 知昭	(第2研究部助教授)	50. 1. 3	50. 2. 16	イラン, アフガニスタン, インド, 香港
大給 近達	(第4研究部教授)	50. 3. 5	50. 3. 27	イタリア, チェコスロバキア, オランダ, スウェーデン, メキシコ
杉本 尚次	(第4研究部教授)	50. 7. 1	50. 9. 30	オーストラリア, パプア・ニューギニア, 香港
藤井 知昭	(第2研究部助教授)	50. 7. 1	50. 11. 7	イラン, トルコ, アフガニスタン
藤井 龍彦	(第4研究部助手)	50. 7. 4	51. 1. 5	メキシコ, ペルー, ボリビア, ブラジル, アルゼンチン, グアテマラ
和田 祐一	(第3研究部教授)	50. 7. 31	50. 10. 13	デンマーク, フィンランド, フランス, スペイン, 連合王国, オランダ
大胡 修	(第1研究部助手)	50. 8. 16	50. 8. 23	フィリピン
端 信行	(第3研究部助教授)	50. 8. 20	50. 11. 2	連合王国, フランス, セネガル, マリ, 象牙海岸, オートボルタ, ガーナ, ダホメ, ナイジェリア, ニジェール, カメルーン, イタリア
伊藤 幹治	(第5研究部教授)	50. 9. 1	50. 12. 20	アメリカ合衆国
吉田 集而	(第2研究部助手)	50. 10. 6	50. 12. 14	インドネシア
石毛 直道	(第5研究部助教授)	50. 10. 7	50. 11. 30	タイ, インドネシア, 西サモア, トンガ諸島, フィジー諸島, アメリカ合衆国, マーシャル諸島
加藤 九祚	(第1研究部教授)	50. 10. 17	50. 10. 31	ソビエト連邦
石森 秀三	(第4研究部助手)	50. 10. 19	50. 12. 27	オーストラリア, ニューズランド, 西サモア, トンガ諸島, フィジー諸島, エリス諸島, ギルバート諸島, ナウル, マーシャル諸島, カロリン諸島, アメリカ合衆国
竹村 卓二	(第1研究部助教授)	50. 11. 15	51. 1. 14	タイ

来館者記録抄

昭和49年

- 7月2日 George DeVOS カルフォルニア大学教授
 9月25日 岡田 桑三 EC日本アーカイブス所長
 11月15日 梅溪 昇 大阪大学文学部長
 11月26日 松田 智雄 ケルン日本文化館長
 12月18日 M.M. EYMES ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館長

昭和50年

- 1月13日 Gordon T. BOWLS コルゲート大学教授
 2月18日 李 杜 鉉 ソウル大学教授
 3月11日 KOENTJARANINGRAT インドネシア学術会議議長
 3月31日 今井 滋 九州芸術工科大学助教授
 4月3日 Andrey I. KRUSHANOV ソ連科学アカデミー極東科学センター幹部会副総裁
 Boris N. SLAVINSKY ソ連科学アカデミー極東科学センター幹部会学術秘書代理
 V. LUKJANCHUK ソ連科学アカデミー極東科学センター幹部会主任研究員
 5月30日 Walter GARDINI ブェノスイス イレス サルバドル大学教授
 畑中 幸子 金沢大学助教授
 6月17日 モタメディ 遙子 アフガニスタン カーブル博物館館長夫人

- 6月23日 衣笠 茂 甲南大学長
 和田 邦平 甲南大学教授
 井上 忠司 甲南大学助教授
 6月24日 坂井 利之 京都大学教授
 7月4日 OECD社会科学カントリーレビュー調査団一行
 Alexander KING (英)前OECD科学局長
 James MORLEY (米)コロンビア大学教授
 Dudley SEERS (英)サセックス大学開発研究所長
 Hans BAERWALD (米)カリフォルニア大学教授
 7月8日 土田 滋 東京外国語大学助教授
 原 忠彦 東京外国語大学助教授
 8月20日 我妻 洋 カリフォルニア大学教授
 9月9日 後宮 虎郎 国立京都国際会館長
 10月7日 Joseph KREINER ウィーン大学日本文化研究所長
 10月14日 David F. FITZGERALD 大阪アメリカンセンター館長
 10月29日 Jim ZIENEL ボストン児童博物館コミュニティサービス主事
 10月29日 Karen WEISEL ボストン児童博物館日本部主任
 10月30日 Victor SADLER 世界エスペラント協会事務局長
 11月19日-29日
 Robert O. LAGACÉ HRAF 副会長
 Hesung C. KOH HRAF アジア研究部長

大学院学生受入れについて

昭和51年4月から、国立大学その他の大学の大学院学生を受入れ、研究指導を行うことになった。なお、具体的な内容については、現在検討中であるが、大綱は次のとおり。

受入れ対象；大学院博士課程の後期3年の課程に在学中の者（又は区分を設けない大学院博士課程にあつては、これに相当する者）で、民族学（文化人類学）に関する研究を行っているもの。

受入れ人数；昭和51年度および昭和52年度は10人以内（昭和53年度以降については再検討の予定）。

連携大学；大阪大学（文学研究科）および関西学院大学（文学研究科等）。その他の大学については、要請がありしだい、受入れ人数等を考慮して検討する予定。

研究指導の形態；論文指導および現地調査（フィールド・ワーク）の指導。

受入れ期間；原則として1年。

受賞および学位取得

受 賞

田邊 繁治

アジア経済研究所優秀論文賞

昭和49年7月1日付

チャオ・ピア・デルタの運河開発に関する一考察（Ⅰ）、（Ⅱ）

藤井 知昭

昭和50年度芸術祭優秀賞

—レコード部門（国内盤の部）—

昭和50年12月20日付

アフガニスタン民族音楽大系

学位取得

伊藤 幹治

文学博士（国学院大学）

昭和50年5月28日付

稲作儀礼の研究

吉田 集而

薬学博士（京都大学）

昭和50年9月23日付

インドネシア産桂皮類生薬の組織学的研究

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文を1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川123の17（日本万国博覧会記念公園）

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-877-5341）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
〔柳田, 1942: pp. 67-69〕
〔LEACH, 1961: p. 123〕
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
〔柳田, 1942a: pp. 20-22〕〔柳田, 1942b: p. 10〕
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の論題は引用符でかこみ、雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合

Bohannan, P., 1973, "Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist",
Current Anthropology, Vol. 14-4, The University of Chicago Press.

石田英一郎, 1948, 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13巻4号 岡書店。

単行本の場合

Berlin, B. & P. Kay, 1969, Basic Color Terms: Their Universality and Evolution,
University of California Press.

柳田国男, 1942, 『日本の祭』弘文堂書房。

国立民族学博物館研究報告 1巻1号

編集委員

江口一久	中山和芳
加藤九祚(編集委員長)	松原正毅
黒田悦子	和田正平
杉本尚次	

〔後記〕 このたびの創刊号の発行にあたっては、関係者の協力を得て、おかげをもちましてようやく所期の目的を果たすことができました。巻末の梅棹館長の一文は、昭和51年1月7日の館内研究部会でお話されたものですが、私たち研究者の自戒の意味で掲載させていただいたものです。

(加藤)

昭和51年3月8日印刷
昭和51年3月15日発行

非売品

国立民族学博物館研究報告 1巻1号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川23-17

TEL 06 (877) 5341 (代表)

印刷 (株)石田大成社印刷所

〒604 京都市中京区丸太町通小川西入

TEL 075 (211) 9111 (大代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.1 no.1
March 1976

- KURODA, Etsuko ——— The Rituals of the Mixe Indians in Oaxaca (Mexico)
——sacrifice and catholicism
- SASAKI, Komei and ——— Swidden Cultivation and Agricultural Rituals
Yasuhisa FUKANO in a Rukai Village (Formosa)
- NAKAMURA, Takao ——— Systematic Study of the *Shirofumitaget* Wooden Clog used
in Rice Paddies (Japan)
- KATO, Kyuzo ——— Siberian Peoples Observed by Goroji NAKAGAWA
- EGUCHI, Paul Kazuhisa ——— Performers of Fulbe Oral Arts in Diamare
Prefecture (Cameroun)
- UMESAO, Tadao ——— About This Bulletin



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
Phone 06-877-5341